

1. 単元名「はないっばいになあれ」

- ①「あさがおをそだてよう」 → 本単元
- ②「はるにさく花(きゅうこん)をそだてよう」

2. 活動づくりにあたって

こんな子ども達だから	こんな教材で
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の南側の地区は、自然環境にも恵まれているが、北側や大橋駅へ向かう東側の地区は、マンションが立ち並び、自然を身近に感じられる場所は少ない。また、東京・大阪などの首都圏からの転勤で本校へ入学する子どもも多い。そのため、入学前に自然環境の中で遊んだ体験が乏しい子どもが多く見られる。 本学級の場合、5月の時点で、33名中、土をさわる事に抵抗感があつた子が7名(汚れると家の人に叱られるから、気持ち悪いから、土をさわった事がない)、入学前に何か植物を植えた事がある子は7名(チューリップ4名、ガーベラ1名、クロッカス2名、しかしいずれも、植えた後の世話は先生や保護者がしていた)、昆虫に関しても、嫌いでさわることができないと答えた子が14名、さわることができるけれど好きではない7名で、好きと答えた子は5名だった。 ○ 4月に二年生が学校案内をしてくれた際、校庭に生る木苺や土筆摘みに夢中になったり、池の鯉に興味を示したりした子どもも多かった。「校区で遊ぼう[春]」では、公園に実る山桃や桑の実、ツツジの花の蜜などを口に入れて楽しんだり、小さなバツタを見つけて喜んだりする姿も見られ、友達とのかかわりの中で、土・植物・昆虫などにふれる事への抵抗感が薄らいできた子どもも増えつつある。しかし、家に帰ってからも積極的に外に出て、自然に触れて遊ぼうとするにはまだ至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元「はないっばいになあれ」を設定し、栽培活動を体験させていく。まず、植物を育てた体験がほとんど無い子ども達なので、「あさがおをそだてよう」で、共通の植物を育てる体験を通して、植物の生長を喜ぶ気持ちや継続して世話を続ける意欲を持たせる。また、変化や性質に目を向けさせ、気付きを共有化させることで、生命の不思議やたくましさを感じさせていく。この学習を通して、「また育てたい。」という気持ちを持たせて、次の「はるにさく花をそだてよう」では、お店の人に相談したり図鑑で調べたりして、育てる球根を自分で決め、保護者と買いに行かせる。自己決定をする事で、継続して世話を続ける意欲を持たせることができると考える。ここでは、球根と限定する事で、種から育つ植物との生長の似ているところや違うところを見つける事もできる。友達の育てている植物の育ちと比較することで、気付きを深めたり広げたりすることもできる。 ○ 本単元「あさがおをそだてよう」を設定し、植物を育てる体験をさせる事は、以下の点から価値あると考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の花を育てる」という意識を持たせる事で、その生長を喜び、土や植物にふれる事への抵抗感を減らしていく事ができる。また、生長に応じた世話を考えたり、育ちの様子を工夫して表現したりする意欲を持つこともできる。 ・ 友達や二年生、保護者とのかかわりの中で、元気に育てて花をたくさん咲かせたいという願いを持って、継続的に世話を続ける事ができる。 ・ 種や球根から育てていくことで、植物の生長や変化、不思議な性質やおもしろさ、たくましさに気付き、交流を通してその気付きを深めていく事ができる。 ・ 蔓でのリース作りから、「校区で遊ぼう[秋]」へと、自然な流れで意識を繋いでいく事ができる。

「あさがおをそだてよう」では、こんな子どもの姿をめざしたい

- あさがおの生長を楽しみにして、その時々に応じた世話を続ける事ができる子。
- 自分が育てているあさがおをじっくり観察できる子。
- あさがおの育っていく様子や変化に気付き、教師・友達・保護者に進んで知らせる事ができる子。
- あさがおの生長や変化、不思議な性質やおもしろさ、たくましさに気付き、進んで試し確かめたり、遊びや生活に生かしたりする事ができる子。
- あさがおの世話を続けることができた自分への喜びや自信を感じ、自分も周りの人のかかわりがあって成長している事に気付く事ができる子。

そのためにこんな方法で

- 「つかむ」段階で、現二年生が一年生の時に育てたあさがおの蔓で作ったリースを提示し、自分もリースを作れるくらいに、しっかり世話をし大きく丈夫に育てようという気持ちを持たせる。
- 絵や文章だけではなく、写真・ラミネートを掛ける、花の叩き染めをするなど、様々な記録や保存の仕方があることに、体験を通して気付かせるとともに、世話や観察をする意欲を持続させていく。
- あさがおの各部を使って遊んだり生活に生かしたりする活動を通して、その生命力を感じ慈しむ気持ちを持たせる。そのような活動から、自分で育てることの楽しさや喜びを味わわせ、「また何か植物を育てたい」という意欲も持たせる。
- 個人の気付きを共有化するための時間を取り、できるだけ具体的な形で提示していく事で、気付きを深め広げていく。その中で、どんなところに目を向ければ、成長や変化、性質やおもしろさに気付く事ができるのかも、体験的に理解させていく。

3. 単元の目標

	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
単 元 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物に関心を持ち、進んで世話をし、その成長を喜び慈しむ事ができる。 ○ 自然に触れる事を楽しみ、進んで生活の中に自然とのかかわりを取り入れていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物の生長に応じた世話ができ、育っていく様子や変化を、工夫して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的なかかわりの中で、植物の成長や変化、不思議な性質やおもしろさ、生命力に気付く。 ○ 自分も周りの人のかかわりの中で成長していることに気付く。

4. 活動計画

「はないっぱいになあれ」 → 総時数 21 時間

①「あさがおをそだてよう」 → 本単元 16 時間

②「はるにさく花(きゅうこん)をそだてよう」 → 5 時間

あさがおの種を植えよう。(3)

二年生があさがおの蔓で作ったリースを見たり、二年生のお話を聞いたりして、自分も作ってみたいという気持ちを持つ。(昼休み)

あさがおってどんな花かな。
種から芽が出て、青い花がいっぱい咲いたんだって。
夏休みも忘れずに世話をしないと、蔓が伸びないんだって。ぼくも、毎日水やりして、こんなリースを作れるくらいに育てたいな。

事前に二年生の児童に、リースを持って来て簡単な説明をしてもらえるように頼んでおく。

あさがおの花が咲いた頃の写真を提示する。

あさがおの種をよく見てみよう。①

種をよく見たら、尖った方に穴があったよ。

私は、この穴から芽(葉の方)が出てくると思う。

ぼくは、根っこが出てくると思うな。

種は黒くて、しわがあるよ。

子ども達は、根や芽の具体的なイメージを持っているわけではないので、深入りはしないが、この穴は何のためにあるのかは考えさせる。

種を植えよう。②

一番先の指のしわくらいの深さに穴をあけて、植えるんだね。

朝、毎日水やりをするよ。

どんな世話が必要か考えさせる。

子ども達の種まきと同時に、発芽の様子が見えるようにしたものを教室に置いておく。

あさがおを育てよう。(8)

芽の様子をよく見よう。

穴から根が出てきた。種の膨らんだところに、葉っぱが隠れていたよ。

双葉の様子をよく見よう。①

双葉はハート型でつるつるしている。

葉の裏と表に線がある。

茎の真ん中に何かあるよ。

あさがおの間引きをし、本葉の様子をよく見よう。

本葉は、とがった形をしている。

葉の裏にも表にも毛が生えていて、ざらざらしている。

茎にも毛が下向きに生えている。

間引きをしたあさがおを思い出に残そう。(図工①)

押し花やラミネートを掛けると、保存できる事、記録などを「あさがおの本」にまとめる事を知らせる。

毛が生えていることに気付かせ、わけは図鑑に載っていることを知らせ、自分で調べる事ができるようにする。

つばみや蔓の様子をよく見よう。

本葉が右左揃わなくなってきたよ。

つるという言葉を教える。

葉と同じところから、つぼみが出ている。

蔓とつぼみは、反対の向きに巻いているよ。

あさがおの花で楽しもう。④

花の様子をよく見よう。②

花で遊ぼう。②

花びらを抜くと、真ん中に棒みたいなのがあって、舐めると甘かったよ。

種は、いつ頃できるのかな。

しぼんだ花で風船ができるよ。

しぼんだ花で絵を描いて、酢や石鹼水を付けたら色が変わった!

叩き染めもしたよ。

咲いている花の付け根にビニルテープを付け、いつ頃種ができそうか予想させる。

夏休み中の世話などについて考えさせる。

あさがおの種を取ろう。(夏休み中)

あさがおの生長を振り返ろう。(5)

あさがおの生長を振り返ろう。③

毎日世話をしてきたから、ここまで育ってくれたんだよね。

あさがおはすごいと思った。だって、種の時から、ちゃんと芽があつたり次の大きくなる準備をしていっているから。

実の中の青い種の皮をむき、中にすでに双葉や根のものが隠れている事を確かめさせる。

各自の「あさがおの本」をもとに、種からの成長を振り返らせ、交流を通して、それぞれの気付きを共有化させる。

あさがおの蔓で、リースを作ろう。① → (本時)

蔓が、ぼくの背よりずっと長くなったよ。

二年生みたいに、飾り付けたいな。

どんぐりのあるところ、知ってるよ。

あさがおの本を整理しよう。①

また、何か育ててみたいな。

はるにさく花をそだてよう。(5)

校区で遊ぼう(秋)。(6)

つかむ さぐる ひろげる

5. 本時

平成 16 年 10 月 27 日 (水曜日) 5 校時 [15/16]

於 1 の 1 教室

6. 本時の目標

- ◎ あさがおの生長の様子や自分とのかかわりに気付くことができる。 … (気付き)
- あさがおの生長を喜び、蔓を大切に扱って、リース作りをすることができる。 … (態度)
- 自分のリースを丈夫にしたり飾ったりする材料は、どこに行けば手に入りそうか、過去の学習や生活体験から考える事ができる。 … (思考)

7. 本時学習の考え方

子ども達は前時まで、種まきから種取までの活動でのあさがおの成長や性質についての気付きを、自分の「あさがおの本」の記録をもとに振り返り、交流を通して、それまでは個々の気付きであったものを共有化してきている。その中で、青い種の皮を取ると、中には双葉のもとや根がすでにあること、双葉の時には本葉の、本葉の時には蔓や蕾のもとがあることなど、あさがおは、種の時から着々と次の成長の準備をしていることにも、驚きをもって気付いている。

しかし子ども達の中には、本単元の「つかむ」段階で、二年生が見せてくれたあさがおのリースを見て「自分も作りたい。」と思い、しっかり蔓を伸ばそうと熱心に世話をしてきたにも拘らず、数多くの花が咲きたくさんの種が取れたことで満足し、一見枯れたように見えるあさがおへの興味が薄れてきた子どもも見られる。

そこで、本時の学習では、二年生の作ったあさがおのリースを再度提示し、自分の蔓の成長を改めて確認させ、自分の毎日のかかわりがあってこそ、ここまで育ったのだということに改めて気付かせ、自分の成長も感じさせたい。次に、本葉が左右揃って出なくなってきた下の葉から 4・5 番目あたりから、葉と同じ場所から蕾が付いたことを想起させ、葉と蕾のつく場所を効率よく取るために蔓を伸ばすという、種を増やすためのあさがおの賢さにもできれば気付かせたい。そして、目を奪われがちな花や種だけでなく、根・葉・蔓すべてに、生命力を感じて慈しんだり大切に扱ったりする気持ちを持たせたい。

リース作りに当たっては、「何か飾りを付けたい」と思わせるように、教師が作ったリースには烏瓜などを付けておき、「プールの脇のフェンスで烏瓜を見つけた。」などの声を引き出して、一学期の生活科で校庭や校区の公園にどんぐりの木があったことなどを想起させ、「自分のリースにも飾りを付けたい。」という気持ちを持たせ、次單元「校区で遊ぼう [秋]」へと意欲を繋いでいきたい。また、蔓の長さが短めだった子へは、へくそかずら等蔓性の植物を提示し、これらを巻いていけば丈夫にできることを知らせ、意欲を無くさずに作ることができるように配慮する。

8. 準備

- (教師) → 二年生が作ったリース、教師の作ったリース、カラータイ、へくそかずら等の蔓性植物、提示用の烏瓜やどんぐりなどと採取した場所の写真、簡単な校庭や校区の公園マップ、あさがおの生長をまとめた掲示物、学習カード
- (子ども) → 自分のあさがおの蔓、ゴミ袋、はさみ、カラータイ

9. 本時の展開 (A案)

学習活動と子どもの姿	支援	形態準備	評価の観点 (見取りの方法)	
			評価規準	評価基準
<p>1. 本時のめあてを確かめる。</p> <p>そだてたあさがおのつるをつかって、リースをつくろう。</p> <p>こんなにつるがグルグル巻いているから、自分の背よりずっと長かったと思うな。 ぼくのは、どれくらい伸びたのかな。</p> <p>やったー。ぼくの背より長く伸びていた。腕の広さのいくつ分あるのかな？</p> <p>2. 自分のあさがおの生長を確かめながら、リースの形にまとめる。</p> <p>すごい。細い根が、こんなにいっぱい生えていたんだ。</p> <p>蔓は、私の背より長く伸びていたよ。きっと、私は朝だけじゃなくて帰りに水やりをしていたから、あさがおもがんばって大きくなってくれたんだよね。</p> <p>ぼくの蔓は、少し短め。水やりはしてたんだけど。夏は暑かったから、もっと水をあげたほうがよかったのかな？ でも、蔓のある草を探して、おしゃれで丈夫なリースを作るよ。</p> <p>3. リースを飾ったり、丈夫にしたりするために必要な材料は、どこに行けば手に入りそうか、考える。</p> <p>もうすこし丈夫にしないと、飾りを付けた時、壊れそうだな。</p> <p>このままじゃ、ちょっと寂しいな。何か飾りを付けたいな。</p> <p>そういえば、この前、プールのフェンスのところで、からすうりを見つけたよ。まだ小さかったけど、もう大きくなっているんじゃないかな。</p> <p>どんぐりだったら、どんぐり公園に行けばいいよ。</p> <p>4. 本時の活動を振り返り、気付いた事や感じ取った事を出し合い、次時のめあてを持つ。</p> <p>あさがおってすごいよね。種を増やすための準備を次々にしているし、根や蔓をしっかり伸ばして、たくましいよね。</p> <p>団地の、カップ公園なら帰ってから遊びに行けるな。松ぼっくり、拾って来よう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種まきの前に見せた、現二年生が(一年生の時に)作ったあさがおのリースを再度見せて、自分達も、こんなに立派なリースを蔓で作りたいと、あさがおの世話を続けてきた事を、思い出させる。 ○ あさがおが蔓を伸ばすのは、多くの花を付け、種を増やすためであることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 花のつぼみは、葉の付け根についた事を想起させ、葉をつけるスペースをうまくとるには、蔓を伸ばす必要があることに気付かせる。 ・ 子ども達には、先に根元を切って、支柱を抜いて蔓を取らせ、自分の身長と比べるなどして、蔓の成長を確かめさせておく。[チャレンジタイム] ○ あさがおの生長や自分とのかかわりを感じさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 根の様子を見せ、根もしっかり張っている事にも気付かせる。→自分のあさがおの根の様子は、次時に確認させ、乾燥後ラミネートを掛け、「あさがおの本」に加える事を知らせる。 ・ あさがおが大きく育ったのは、世話を続けた自分がいたからである事に気付かせる。→代表児に自分の蔓の長さやどんな世話をしてきたか発表させる。 ○ リースの形へのまとめ方を示し、形にまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 切れやすいので無理に引っ張らない事、切れた蔓もカラータイでまとめていけばよい事を知らせる。 ・ ボリュームが少ない子には、へくそかずら等のつる性の植物を提示し、巻き付けていけば丈夫にできる事を知らせる。どうしても、蔓の長さが極端に短く形作る事ができない子がいれば、間引きして花壇に植えたものを加えさせる。(なるべく、自分のあさがおの蔓で作らせたい。) ○ 自分のリースの形と、二年生の作ったリースと比べさせ、丈夫にしたり飾ったりしたいと感じさせ、さらに教師の提示したリースを見て、季節「秋」を感じるものを加えたいという気持ちを持たせる。 ○ 学校の中や、一学期に行った公園に、どんぐり・へくそかずら・まつぼっくり・からすうり等があることを知らせ、どこにあるのか、写真やマップ(簡単なもの)を見て、考えさせる。 ○ あさがおは、種の段階から根・双葉の準備をしていた事や、葉と花をたくさん付けるために、根や蔓をしっかり伸ばしていた事を振り返って、そのたくましさを感じ取らせる。 ○ 次時は、学校や校区に材料を探しに行く事を知らせる。→ここからは、次単元「校区で遊ぼう(秋)」へと入っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達で危険なところに行かないように、注意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉(形態) ・ 二年生が作ったリース ・ 自分のあさがおの蔓 ・ 一斉(形態) ・ 教師がやって見せる。 ・ 各自(形態) ・ 各自のあさがお ・ カラータイ、ゴミ袋、名前タグ ・ へくそかずら等 ・ 花壇のあさがおの蔓 ・ 一斉(形態) ・ 二年生が作ったリース ・ 教師の作ったリース ・ どんぐり・へくそかずらの実物と、取った場所の写真、マップ ・ 一斉(形態) ・ 生長をまとめた掲示物。 ・ 各自(形態) →カード 	<p>〔気付き〕</p> <p>あさがおの生長の様子や自分とのかかわりに気付いている。 (行動観察・発言)</p> <p>A ; あさがおが、根や蔓をしっかり伸ばしているのは、種を増やすためだという事や、自分が毎日世話をしてきた事があって初めてあさがおが大きく育つ事ができたのだという事に気付き、生長を喜びながら、リース作りをしている。</p> <p>B ; あさがおの生長の様子や自分とのかかわりに気付き、育てたあさがおの蔓を大切に扱って、リース作りをしている。</p>	